

⑤ラムサール条約普及啓発の取組

提案主旨

鳥取・島根両県で、貴重な財産である中海・宍道湖を守り、有効に活用する意識を醸成するため、地域住民や次代を担う子どもたちの参加による普及啓発事業を実施する。

提案内容

ラムサール条約登録5周年記念事業(H22)で得たネットワークや環境意識を単発で終わらせることなく、両県連携により継続して他地域との交流、環境教育に取り組んでいく。

○こどもラムサール交流

次世代の湿地保全を担うリーダー育成を目的に、他地域の子どものたちと交流・学習する。

○ラムサール条約リレーシンポジウム

両県でリレートワーク的にシンポジウムを開催する。

取組状況

講演会、自然体験、バスツアーなどを実施。

【H23年度】 延べ約700名の参加

8/12 「古代・昔・ちよつと昔の中海を感じよう！」(中海及びむきばんだ史跡公園)

9/25 「宍道湖・中海の自然とその歴史」(道の駅 秋鹿なぎさ公園)

10/8～9 「こどもラムサール全国湿地交流会」(米子水鳥公園)

11/13 「宍道湖・中海の自然とその歴史を巡る」(バスツアー)

1/14 「中海の水中の様子や魚・貝・水鳥を見てみよう！」(米子水鳥公園)

2/18 「中海・宍道湖を学び、楽しもう！さかなクンとともに」(くにびきメッセ)

【H24年度】

7/27 「楽しく学ぼう！～宍道湖・中海のつながり、歴史、恵みを感じる～」

(八雲立つ風土記の丘 ほか)

9月 下旬 「ゴズ釣り、ゴミ拾い等」(宍道湖畔)

9月 「こどもラムサール交流」(谷津干潟(千葉県習志野市))

10月 「こどもラムサール交流」(円山川(兵庫県豊岡市))

11/10 「マンガ・イラスト教室」(米子水鳥公園)

11月 中旬 「魚と人をつなぎなおす」(宍道湖畔)

12/15 「両県合同シンポジウム」(境港市シンフォニーガーデン)



H23 年度 「こどもラムサール全国湿地交流会」

今後の取組の方向

NPO等との連携を進め、引き続きラムサール条約関連普及啓発を継続して取り組む。

主な関係主体

鳥取県(生活環境部)

島根県(環境生活部)



⑥ポータルサイトによる情報発信

提案主旨

中海・宍道湖にかかわる環境活動を中心とした行事やイベントなどの情報を集約し、また発信するための拠点として「ポータルサイト」を立ち上げる。

提案内容

○ 応援団を会員として、中海・宍道湖関連催事の情報集約と発信の拠点とする。

⇒ ラムサール条約登録5周年記念事業を契機に、応援団として賛同を得た企業等163社とつながり、更なる広がりを作る。

⇒ メール配信サービスを開始し、県民参加の活動の輪を広げ、楽しみ、自然再生につなげる。
(アダプト、海藻堆肥、一斉清掃、アマモ造成、稚魚放流、エコセーリング 等)

→ → → これをみれば、中海の関連情報がわかる、参加できるサイトを目指す

取組状況



・H23.10 ポータルサイト「中海・宍道湖情報館」の試験運用

12 正式運用開始
現在のコンテンツ

①ニュースリリース ②イベントカレンダー

③中海・宍道湖のご案内(ラムサール条約について、水質と浄化の取り組みなど)

④加入団体のご紹介 ⑤リンク

今後の取組の方向

当ポータルサイトの周知を図るとともに、加入団体を増やし、それに伴う情報量の充実をはかる。

主な関係主体

鳥取県(生活環境部)

島根県(環境生活部)

⑦「日本風景街道」の推進

提案主旨

中海・宍道湖・大山圏域における日本風景街道活動「人間文化の原風景～ご縁をつなぐ神仏の通ひ路～」を県境を越えて推進する。

提案内容

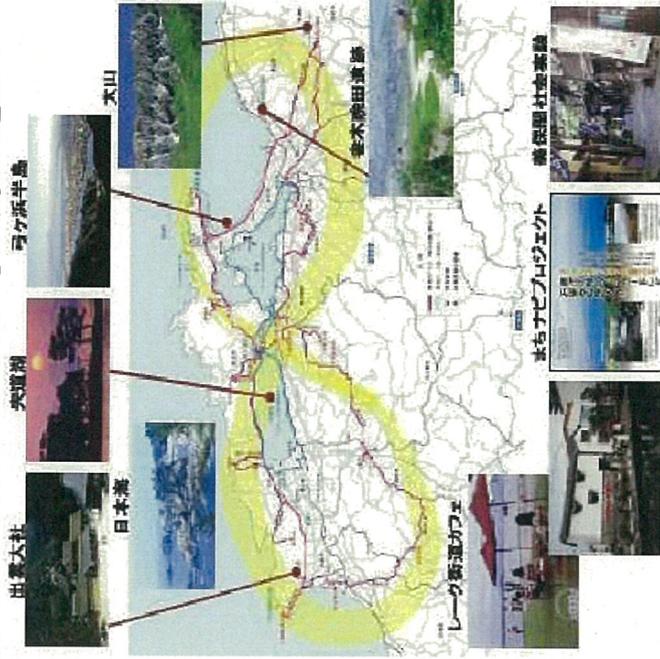
- 中海・宍道湖を囲む「水辺ルート」や、寺社を結ぶ「神仏の通ひ路ルート」などを、「人間文化の原風景～ご縁をつなぐ神仏の通ひ路」として登録し、NPO等の活動団体が主体となって、地域にある豊かな自然や歴史的資源を道路利用者が体感し楽しむための地域づくり活動を実施。
- 風景街道ルートに案内看板やビュースポットなどの道路環境整備を実施。

取組状況

【H22～23年度】

島根県内の風景街道ルートの沿線にある「道の駅」に、風景街道ルート名大型看板、ルート地図板、ブース、ビュースポットなどを整備。

H23.3 「神々の国しまね」プロジェクトの観光案内サイン整備に位置づけ。



『人間文化の原風景～ご縁をつなぐ神仏の通ひ路』

【H24年度】

引き続き、未整備の「道の駅」に整備を進める

今後の取組の方向

鳥取県内の整備については今後両県で調整を図る。
 両県と「日本風景街道」事業に取り組んでいるNPO等の活動団体との協働・連携により、原風景を創成する運動を促し、観光の振興や、地域の活性化につなげていく。

主な関係主体

- 鳥取県西部総合事務所 (県土整備局)
- 島根県 (土木部)

その他の活用アイデア

⑧「中海憲章(仮称)」の制定

中海を取り巻く地域が一体となって一緒に行動していくための共通の言葉「中海憲章(仮称)」を制定する。その理念や指針を実行するイベントの開催や、圏域の小学校、公民館等へ校内、館内への憲章の掲示や関連行事の実施など、活動の契機となるような取組を進める。今後、NPOなどの取り組みを支援しながら、地域が一体となった機運を醸成していく。

⑨中海ワイズユース住民活動推進プロジェクト

中海圏域の住民から、中海の賢明利用企画の提案を公募する。自然環境と調和し広く圏域住民が中海の恵みを楽しめるものであれば分野を問わない。「自ら実施部門」と「提案部門」を設け、間口を広げる。住民自身が、未来志向で楽しい企画を考え、やってみることで、中海への関心や気運を盛り上げる。今年度は両県NPOの共同体が提案した「中海の魅力ある文化」再発見・体験・創造事業を、鳥取・島根広域連携協働事業として採択し、支援している。6月にはこの事業の一つの「中海オープンウォータースイム」が開催され、後援として両県で協力・支援した。

⑩環日本海国際トライアスロン in NAKAUMI

「皆生トライアスロン」の姉妹大会として「中海トライアスロン」を創設する。「中海湖岸周遊コース」を設定して、新たな風景(江島架橋、中海大橋、風車、大山、中海等)を感じ、実際に中海を泳ぐことで水質を実感してもらおう。道の駅も活用し「中海サイクリングロード」とリンクさせる。地元の盛り上がり不可欠。

⑪環境負荷の軽減行動の指標化～私たちにできること～

清掃活動、藻の除去、下水道接続などのNPO等団体活動や市民生活行動が、中海の水質にプラス、マイナスの貢献している関係を解り易くするため、数値又は指標化する。学習教材やホームページに反映し、関係性の自覚と水質環境貢献行動へのやりがいを生む。

(例) 海藻、川藻の水の中からの引き上げ 100kg ⇒ ○○
生活排水が流れる側溝の清掃 100m ⇒ ○○
下水道に接続 1軒 ⇒ ○○ 有機農業化 1反 ⇒ ○○ 等

⑫マリンスポーツ・レクリエーションの拠点づくり

ウインドサーフィン、シーカヤック、ボートなどのマリンスポーツ、釣りなどのレクリエーションエリアとして充実させる。「トレーニング」「参加」「観覧」といった活動が楽しめるエリアにするため、親水空間と設備(休憩スペース、駐車場、水道、トイレ等)を整備することを検討。

⑬ECO シップコンテスト in NAKAUMI

中海周辺には、電気関係事業や高等教育機関、エネルギー施設等、「電気」にまつわる関連事業が集積している。このことから、環境にやさしい「電気」と「水」をテーマとした、中海で利用の多い「小型船」「ボート」を対象とした開発参加型の大会を創設する(「琵琶湖の鳥人間コンテスト」に対抗)。人力発電部門、ソーラー船部門などを設けるなど趣向を凝らす。

⑭中海周遊船の運航支援

中海を両県にまたがって周遊する観光船の運航支援を、周辺自治体で連携して行うことを検討。イベント的な一定時期の限定実施、イベントとのタイアップなどの方法を検討。

⑮高等教育機関と連携した人材育成

大学と行政が連携して、中海に愛着や興味がある人などを対象に、人材育成講座、コンシェルジュ養成講座を開催する。一定期間継続して開催し、修了者には証書や称号など『中海の達人』『中海案内人』『中海の料理人』など分野に応じて)を授与する。中海に関する「学び」を通して、受講者に生涯学習的な充実感を得ていただくとともに環境への意識を高め、地域への愛着を深めてもらい、環境活動等の場で活躍してもらおう。

中海水産資源生産力回復調査の計画について

1 概要

国土交通省により整備が進められている中海の造成浅場（大崎地先）を水産資源（マハゼ）の生産の場として利活用する方策を調査、検討する。

2 期間

平成24年度（下半期）～（平成26年度）

3 調査水域

大崎地区地先の造成浅場

4 主な調査対象生物

マハゼ

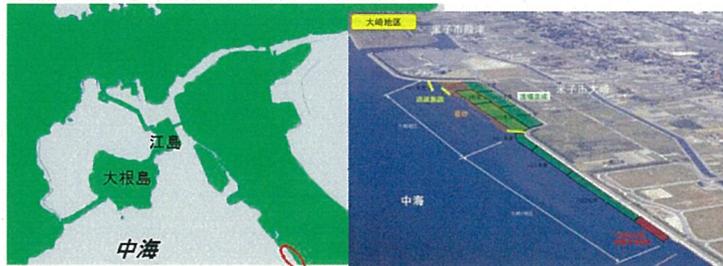


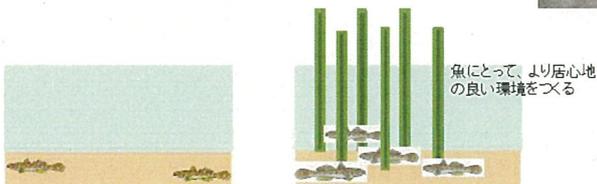
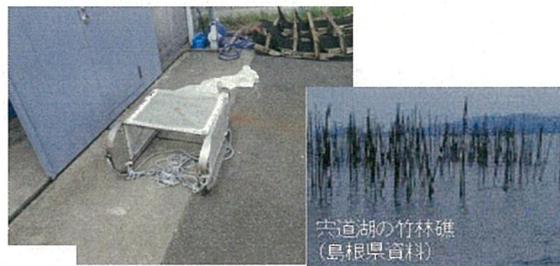
図 調査海域の大崎地先造成浅場

マハゼ *Acanthogobius flavimanus*

容姿に似ず綺麗な白身、ほくほくとした食感も良く、上品な甘みがある。秋の焼きハゼ作りは境港の風物詩。これを水でもどし甘辛く炊いたものは県西部地方の伝統的なお節料理。

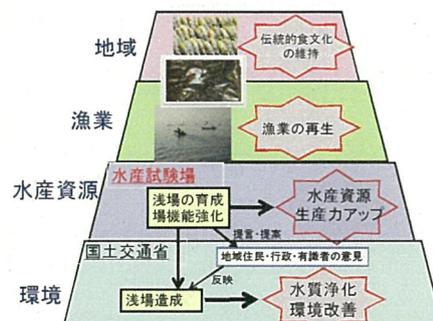
5 具体的な内容

- ① 生物調査
 - ・ 小型ソリネット等による採集調査
 - ・ 潜水調査
- ② 機能強化対策
 - ・ 竹林礁の設置



5 展望

- ・ 漁業者の方と協働で‘実現可能’な増殖手法を提案
- ・ 中海の漁業の維持発展
- ・ 地域の伝統的食文化を守る



<参考>

① 鳥取県西部の焼きハゼ加工場を視察（H23年12月）



- ・ 昨年の地元産マハゼの取扱量は概ね1.3トンくらい。
- ・ 20～30年前は今の10倍はあり、貨車7両分の焼きハゼが東京へ運ばれていた。
- ・ 水産業だけで生計が立てられる漁業者が残るよう、頑張っ欲しい。

② 島根県本庄工区内の竹林礁視察（H24年4月）



- ・ 平成23年4月頃設置。
- ・ 目的は魚の育成場。
- ・ 250本の竹を4人で2日間かけて設置。
- ・ 効果はまだ解らないが、4、5年後に期待しているとのこと。

③ 大崎地区造成浅場における予備調査（H24年8月）



- ・ 調査漁具の試験曳き。
- ・ 造成浅場内で、潜水調査によりマハゼの分布を確認。



本日の料理について(「中海食材」を使ったメニュー)

オゴノリの酢の物

最近、中海の水をきれいにしてくれると注目されているオゴノリ。昭和30年頃までは、食料や肥料、また寒天の良好な材料として産業がなりたっていました。



材料 (4人分)

オゴノリ	食べたいだけ
らっきょ酢	適量
赤かまぼこ	適量
キュウリ	適量

作り方 (4個分)

1. オゴノリを水洗いする
(重曹を適量オゴノリにまぶしておく)
2. お湯を沸かし小さじ1杯程度の塩を入れ、煮立った中にオゴノリを一掴みずつ入れる
(すぐにあげないととろとろになるので注意)
3. すぐに氷水にあげ、酢を垂らす
4. 3を一晩冷蔵庫でねかせる
5. らっきょ酢で味を付ける
(好みの酢味でもよい)
6. 彩りにあかかまぼこ、キュウリ、ミョウガを混ぜる。

スズキのポアレ

サイズによって名前が変わる出世魚。小さいものから順番にヒカリゴ、コッパ、セイゴ、フッコ、スズキとなる。スズキは安価ですが、洋食にあう白身の魚であり、各種ビタミン群の他、鉄分が豊富な魚です。



材料 (4人分)

スズキ	1匹
ピーマン	2個
パプリカ	2個
ニンニク	1片
プチトマト	6個
バター	15g
塩・こしょう	少々
醤油	大さじ1
バルサミコ酢(あれば)	大さじ1
オリーブオイル	適量

作り方 (4個分)

1. スズキを3枚におろし塩・こしょうをしておく。
2. ピーマン、パプリカを一口大に切り、ニンニクをスライスする。
3. フライパンにオリーブオイルを熱しニンニクをカリカリに揚げて取り出し、残ったオイルも別皿に。
4. そのままのフライパンにピーマン、パプリカを入れて塩・こしょうで炒め取り出す。
5. 3のオイルをフライパンに戻し、スズキを皮面から焼き、両面焼けたら皿に盛る。
6. フライパンの油をペーパーで拭き取り、プチトマトを炒めながら潰す。醤油(あればバルサミコ酢)を入れ、最後にバターを入れる。
7. スズキの上に野菜を盛りソースをかければ完成。

アサリのいただき

中海の「あさり」は肉厚で濃厚な味が特徴です。
鳥取県西部で愛される郷土料理の「いただき」に中海食材である「あさり」を具として取り入れました。



材料（4個分）

米	240g
油揚げ	4枚
アサリ	20個程度
ゴボウ	40g
干しシイタケ	4g
ニンジン	20g
だし汁	3カップ (だし昆布30cm)
爪楊枝	4本
A(調味料)	
・砂糖	大さじ4
・酒	大さじ4
・醤油	大さじ4

作り方（4個分）

1. 米は洗って1時間程水につけ、ザルにあげておく。
2. アサリをボイルして、身を取る。
3. 油揚げは熱湯をかけて油抜きをしたあと、1辺に切れ目を入れる。Aを合わせておく。
4. ゴボウはさがき、ニンジンは千切り、干しシイタケはもどして半分に切り千切りにする。
5. 米にAの1/3と具を混ぜ合わせ、油揚げの中に詰め、平らにならして爪楊枝でとめる。
6. 炊飯器の底にだしに使った昆布を敷き、5を並べAの残りとしだし汁を加えて炊く。
7. 煮汁がなくなったら、10～20分間蒸らす。